

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回日向市子どもの未来応援会議
開催日時	令和元年7月18日（木） 13時30分～15時45分
開催場所	日向市健康管理センター2F多目的ホール
出席者	<p>【委員】 日田 剛 委員（九州保健福祉大学） 渡邊 真悟 委員（日向公共職業安定所） 中西 浩美 委員（日向市小・中学校校長会） 関野 ゆかり 委員（日向市生活相談・支援センター「心から」） 椎屋 浩昭 委員（日向市保育協議会） 久光 博之 委員（社会福祉法人 浩和会 白浜学園） 久峯 朋美 委員（宮崎県済生会日向病院） 喜多 裕二 委員（のびのびフリースペース） 西部 末子 委員（排除しないまちづくり「結い」） 三輪 恵子 委員（日向子ども研究所「絆」） 堀 アトム 委員（フードバンク日向） 栗田 義隆 委員（日向市健康福祉部こども課） 鈴木 保博 委員（日向市教育委員会学校教育課） 吉田 由美子 委員（スクールソーシャルワーカー）</p> <p style="text-align: right;">（順不同）</p> <p>【事務局】 柏田 武浩 事務局長（日向市健康福祉部長） 藤本 一三 事務局次長（日向市健康福祉部福祉課長） 黒木 宗隆 事務局員（日向市健康福祉部福祉課） 伊達 忠亮 事務局員（日向市健康福祉部福祉課） 高山 克巳 事務局員（日向市健康福祉部福祉課）</p> <p>【傍聴者】 ・日向子ども研究所「絆」1名 ・排除しないまちづくり「結い」2名</p>
議 題	1. 第1期日向市子どもの未来応援推進計画重点施策の進行状況について 2. 第2期日向市子どもの未来応援推進計画の策定について 3. 第2期計画策定に伴う調査について ①子どもと家庭の生活・ニーズに関する調査について ②子どもの貧困対策に関する教職員アンケートについて

<p>会議資料の名称 及び内容</p>	<p>【レジュメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1向日向市子どもの未来応援会議 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向日向市子どもの未来応援会議委員名簿 ・向日向市子どもの未来応援会議設置要綱 ・「向日向市子どもの未来応援プロジェクト」概要 ・本市の子どもを取り巻く現状 ・民間支援・地域資源に関する調査結果 ・「向日向市子どもの未来応援推進計画」重点施策進行管理表 ・向日向市子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査票（案） ・向日向市子どもの貧困対策に関する教職員アンケート（案）
<p>記録方法</p>	<p><input type="checkbox"/>全文記録 <input type="checkbox"/>発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/>会議内容の要点記録</p>
<p>会 議 内 容</p>	
<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 柏田健康福祉部長あいさつ</p> <p>4. 会議の目的・構成の確認 <事務局説明> 【資料】 ・「向日向市子どもの未来応援会議設置要綱」</p> <p>5. 自己紹介（委員、事務局）</p> <p>6. 会長及び副会長選出 ・会 長：中西浩美 委員（向日向市小中学校校長会、富高小学校校長） ・副会長：志賀信夫 委員（県立広島大学講師） *欠席者：志賀委員、坂本毅啓委員、大坪克弘委員、岩木恵子委員、椎葉哲男委員</p> <p>7. 報告 1) 向日向市子どもの未来応援プロジェクトの経過 2) 子どもの貧困にかかわる現状と民間支援の取り組みについて <事務局説明> 【資料】 ・「向日向市子どもの未来応援プロジェクト」</p>	

- ・「本市の子どもを取り巻く現状」（統計資料）
- ・「子どもの支援・応援に取り組む民間支援・地域資源に関する調査結果」

8. 議事

1) 第1期日向市子どもの未来応援推進計画重点施策の進行状況について
＜事務局説明＞

【レジュメ】

－ 4つの基本施策における特徴的な取り組み状況－

- ① 子どもの成長段階に応じた切れ目のないサポート
- ② 各家庭のニーズをふまえた総合的な生活支援
- ③ 支援を届けるネットワークの確立
- ④ 学福連携を中心とした市民協働の子ども応援

[意見、質疑等]

久光委員：「障がい児の支援の拡充」については、大分浸透してきていると感じている。通所支援事業について、特に重症心身の子どもに関しては、親が中心になって支援されている状況があるが、実際のところ、待機児童は日向市内にいるのか。他の町村にお願いしている部分もあるかと思うが、その把握とその後のフォローはどうなっているのか。

また、学習支援やフードバンクなどの支援を受けてみて、子どもたちはどのような感想を持っているのか。

事務局：通所支援事業には、就学前に児童発達支援、就学後に放課後デイサービスがあるが、放課後デイサービスでは、市内に4事業所、門川町に2事業所増えて4事業所、都農町に1事業所、延岡市に3事業所ということで支給決定しており、ほぼ要望通りになっているものと考えている。ただし、重度の方については、受け入れる施設が市内に1事業所、門川町に1事業所に限られているので、週の日数を制限している。施設側にそれなりの受け入れ体制が必要であり、設置個所数が少ないのが現状である。また、川南町の国立療養所が、受け入れの方向と聞いているので、今後も受け入れ施設の拡充に努めたいと考えている。

学習支援事業については、平成30、31年度で、それぞれ小中学生合わせて12名の参加があり、生活保護受給世帯の子どもや、社協において自立相談支援を受けている子ども、最近は民生委員からの紹介による子どもを受け入れており、毎週末に行われている。30年度は、中学校3年生が全員、志望校に合格することが出来た。「まなびスペース」では、数多くの九保大生に学習支援員となっていただいた。

「まなびスペース」では、「じんせい寺子屋」という企画が行われ、九保大生が自身のライフヒストリーを紹介しながら、自分の夢をどういった時に持てたのか、落ち込んだ時に、どういう関わりで自分が次の展開に行けたのか、といった体験談を語る内容だった。子どもたちが非常に興味深く聞いていて、この14日には、九保大のオープンキャンパスにも参加し、これらの取り組みが子どもたちの進路

を広げるきっかけや進学への動機付けにつながっていくものと思う。また、高校へ進学した子どもも自主的に学習支援に来てくれている。一方で、時間通りに来れない子どももいたり、迎えに行かないと連絡がないなど、学習支援の場に来てもらうまでに、それなりの取り組み・関わりを要する子どももいる。

2) 第2期日向市子どもの未来応援推進計画の策定について

<事務局説明>

【レジュメ】

- ・構成イメージ
- ・今年度のスケジュール

[意見、質疑等]

喜多委員：今回の法改正では「貧困解消に向けて、児童の権利条約の精神に則り推進すること」とあるが、日向市の施策は「児童の権利条約」のどういうところを尊重してやっていくのか。「児童の権利条約」に関して委員が学習し、認識を深める必要があるのではないか。それを無くして、ただ「やってやる」と言うのでは、「精神に則り推進すること」が薄れてしまう気がする。

事務局：喜多委員がおっしゃったとおり、今回初めて委員になられた方もいらっしゃるので、子どもの貧困の解消に向けた法律の改正を含め、委員の勉強会を、今後早い段階で、委員の皆さんの協力を得て、実施出来ればと考えている。

吉田委員：宮崎県弁護士会では、昨年度『子どもシェルター』を開設して、15～20歳までの貧困、虐待、非行などで居場所のない子どもたちの支援を、弁護士会が主体となって始めている。司法との連携について、日向市ではどのように計画されているのか。もし今から検討ということであれば、私たちも権利擁護や人権について学びたいので、勉強会の中で弁護士会と連携して、弁護士による出前講座とかを活用出来ないか、と思ったところである。

事務局：新しい資源として“子どもシェルター”が宮崎に出来た、ということはどうかがっている。司法と福祉の連携ということで、司法ソーシャルワークといった新しい取り組みも始まり、共同してやっていく取り組みも進められているので、現在のところ、日向市としてどの施策を通して拡充していくかは持ち合わせていないが、弁護士会と連携した勉強会については、今後検討していきたい。

3) 第2期計画策定に伴う調査について

<事務局説明>

【レジュメ】

- ① 子どもと家庭の生活・ニーズに関する調査
- ② 子どもの貧困対策に関する教職員アンケート

*基本的に保護者への設問は前回と変えずに、同じ内容にしたい。

[意見、質疑等]

日田委員：前回と同じ設問にするのは、比較が出来て大事である。実際行っている重点施策

の事業効果を尋ねるような調査は別に考えていないのか。

事務局：期間も限られているので、今のところ、そういう取り組みは考えていない。やるとすれば、設問を新たに追加するとか、一緒に（同時期に）やるというと思うが、アンケートの設問のあり方とか形態について検討が必要だと思う。

日田委員：であれば、代表的な施策である、フードバンク、子ども食堂、学習支援の利用状況だけでもきければ、その利用状況を踏まえて、状況の変化や事業の効果が見えるのではないのか。施策を利用している、していないとか、利用している人がその後どうなっているのかとか、検証が出来るような設問があるといいと思う。と言うのも、宮崎市で学習支援に関わって5年目になるが、学習支援を利用している、その後貧困から抜け出せているかと言うとそうではなくて、学習支援だけでは限界があることが見えて来たので、そういうところを具体的に検証して、総合的に施策を考えていく材料にした方がいいと思う。ぜひ検討をお願いしたい。

事務局：必要だとは思いますが、一度、設問設定を含めて検討したい。

栗田委員：アンケートだけではなくて、前はアンケート調査をして計画を作って、2年目に施策を考えて、3年目にそれを実施する、という流れが委員も分かっていた。今回、2年間委嘱されて、今年度アンケートを行うが、その次が分からない。全体の流れの中でのアンケートなのか。

事務局：今回、アンケート調査を実施し、前回調査と比較して改善、悪化の指標が表れてくるので、それにより施策の効果を検証していくこととなる。その上で現在の計画を見直し、第2期計画を策定していくこととなる。調査結果の数値を示しながら、施策的に進められているところで更に拡充が必要ではないか、といったご意見を頂いて、行政において、施策としてメニュー化出来るかどうか、検討させて頂きたいと思っている。来年度以降は、施策の進捗状況を報告しながら、就学援助や生活保護など、現に支援を受けている世帯だけでなく、困窮しているが支援に繋がっていない世帯を、早期に支援につなげる連携づくりと、その後の支援のあり方について、子ども・若者応援ネットの位置付けを含め、協議をお願いしたいと思っている。また、民間支援として、子ども食堂やフードバンクがスタートしているので、その活動を如何に持続可能なものと出来るか、行政だけでなく、市民の皆さんにどうやって協力をお願いできるか、このことは民間支援団体の代表の委員さんからご意見を頂きながら、民間支援の継続、拡充につながるような議論を、2年目以降にやっていければと考えている。

9. 次回会議の日程

第2回会議 8月28日(水)～30日(金)のうち調整。

10. 閉会